

通し番号	4421
------	------

分類番号	21-24-12-03
------	-------------

(成果情報名) 寒玉系キャベツの秋まき及び冬まき5月どり作型の開発
[要約] 加工業務向けキャベツの端境期となっている4～5月どりのうち、5月どりについては、寒玉系キャベツ適品種を用いて、秋まき（10月中旬から下旬播種）及び冬まき（12月から2月播種）露地作型を組み合わせれば、5月上旬から6月上旬にかけて連続して収穫できる。
(実施機関・部名) 神奈川県農業技術センター・野菜作物研究部 連絡先0463-58-0333

#### [背景・ねらい]

加工業務用適性の高い寒玉系キャベツの4～5月どりは、抽だいや不結球等によって生産が安定しない。そこで、5月どりについて、寒玉系キャベツの適品種を用いた新作型を開発する。

#### [成果の内容・特徴]

- 1 寒玉系キャベツ品種‘さつき王’、‘N0553’及び‘さつき女王’を用いて、秋まきでは10月中旬播種、冬まきでは12月から2月播種で露地栽培することにより、5月上旬から6月上旬にかけて連続して収穫できる。なお、秋まきでは、10月上旬播種では抽だいして収穫不可となり、11月上旬播種では発芽後の低温により苗の生育が遅れて、年内定植できず、結果として収穫期が大幅に遅れる（図1）。
- 2 5月どり適品種である‘さつき王’、‘N0553’及び‘さつき女王’の3品種は、作型により芯割合などの特性が異なるが、いずれも花芽分化はみられない（表1、2）。早生性は‘さつき王’>‘N0553’>‘さつき女王’の順である（図2）。なお、裂球しやすさはこの順序の逆で、早生品種ほど在圃性が低い。

#### [成果の活用面・留意点]

- 1 標準的な栽植密度は、畝幅×株間＝60×35cm（4,760株/10a）であるが、栽植密度の増加量に比例して施肥量を多くすれば、1株重が低下しないため増収する。
- 2 秋まきでは地床育苗、冬まきでは72穴セルを用いた。冬まきは加温育苗（最低夜温13℃）する。
- 3 5月どり品種は収穫適期が1週間程度と短いため、収穫が遅れないように注意する。

[具体的データ]

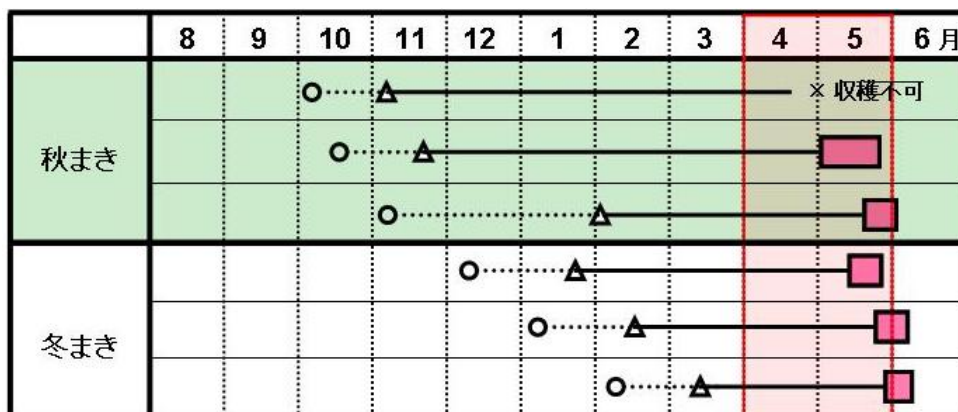


図1 5月どり寒玉系キャベツの基本作型

○：播種、△：定植、□：収穫期

表1 秋まき5月どり作型での寒玉系キャベツ品種の特性<sup>z</sup>

品 種	結球重 (g)	球高 (cm)	球径 (cm)	球形指数 <sup>y</sup>	結球緊度 <sup>x</sup>	芯径 (cm)	芯長 (cm)	芯重 (g)	芯長/球高	芯割合 <sup>w</sup> (%)
さつき王	1495	12.8 b	19.1 b	0.68	0.60 a	4.2 a	7.8 b	82 b	0.61 b	5.6 b
さつき女王	1553	13.8 a	20.3 a	0.68	0.51 b	4.2 a	9.3 a	92 a	0.67 a	6.2 a
N0553	1532	13.2 b	19.4 b	0.68	0.57 a	3.4 b	8.9 a	65 c	0.67 a	4.4 c

z：2008年10月17日播種、2009年5月に調査した個体の平均値、y：球高/球径、x：結球重/( $\pi/6 \times$ 球高 $\times$ 球径 $\times$ 球径)、w：芯重/結球重 $\times 100$ 。異なるアルファベット間にはTukeyの多重検定により5%水準で有意差あり、アルファベットなしは有意差なし

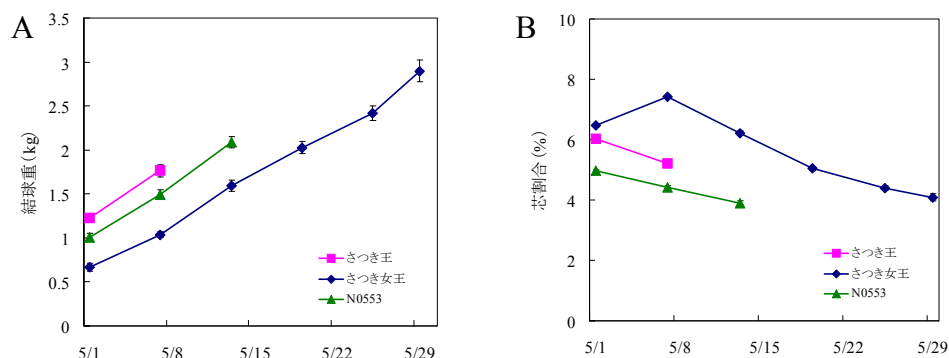


図2 秋まき5月どり寒玉系キャベツの時期別品種特性

A：結球重、B：芯割合。耕種概要は表1を参照。バーは標準誤差 (n=12)を示す。各値は収穫終了時までの測定値。

表2 播種時期の異なる冬まき5月どり作型での寒玉系キャベツ品種‘さつき王’の特性<sup>z</sup>

播種日	定植日	収穫日	結球重 (g)	球高 (cm)	球径 (cm)	球形指数 <sup>y</sup>	結球緊度 <sup>x</sup>	芯径 (cm)	芯長 (cm)	芯重 (g)	芯長/球高	芯割合 <sup>w</sup> (%)
12/8	1/24	5/14	1,554	12.8	20.1	0.64	0.57	4.2	7.6	91	0.59	5.9
1/11	2/16	5/25	1,520	12.4	19.7	0.63	0.60	4.0	7.8	78	0.63	5.2
2/8	3/15	5/28	1,474	11.8	20.5	0.58	0.57	4.5	6.4	72	0.54	4.9

z：2007年5月に調査した個体の平均値、y,x,w：表1参照。

[資料名]平成18～21年度試験研究成績書（野菜）

[研究課題名]業務用春キャベツの品種・栽培技術及び作型開発

[研究期間]平成18～22年度

[研究者担当名]太田和宏・高田敦之（三浦半島地区事務所）・北浦健生・北宜裕